# 低質量WIMP探索のための 大光量液体アルゴン検出器開発

ICEPPシンポジウム 2020/02/16 早稲田大学 寄田研究室 青山 一天 15ページ(実質13ページ)

## ANKOK 実験:液体Arを用いたWIMPの直接探索実験

ICEPP Symposium

#### □ WIMP直接探索実験

• Sig:WIMP-核子弾性散乱 BG:ER event,中性子,...etc

NR/ERの分離がWIMP探索のカギ

### 口 液体Ar光検出器

- 標的物質:液体Ar(LAr,87K)
- 波形弁別(PSD)によるER/NR分離
  - 検出光量向上により分離能力向上

世界最大光量 = 9.1 p.e./keVee (DarkSide-10, 2012年)



• Nuclear Recoil (NR)



### 主要背景事象と分離能力への要請

**ICEPP** Symposium

Data

γ Expected

ER BG (ANKOK data)

+ <sup>39</sup>Ar Expected

中修論(2016年度)

2000 2500 3000

#### 主な背景事象

- <sup>39</sup>Ar (β線源, 1Bq/kg)
  - LAr中に含まれる、 内部ERバックグラウンド

PSDにより解析的に分離、除去

#### ロ 必要な分離能力



Events [/kg/day/keV<sub>ee</sub>] ↓ )

10<sup>2</sup>

1

0

500

1000

1500

<sup>39</sup>Ar event数 (toyMC)

光量増加により0 ER BGを実現可能

### LAr検出器の光収集効率

**ICEPP** Symposium

口 LAr光収集効率



#### 

ロ LAr検出器の光量限界





# Topic1. TPB蒸着技術の最適化



### 真空蒸着手法とTPB表面状態

ICEPP Symposium

#### 口真空蒸着法

- 薄膜形成手法の一種
- 真空中で蒸着物を加熱/昇華させて 基板に付着させる
- ロー般的な薄膜形成過程
- 1. 材料が基板面に入射し、反射or吸着 凝集することで核を形成



 その後入射した分子は段差部分で止まり、 核が成長していく



3. 次第に核同士が合体して、連続膜になる









300 µm



#### 口真空蒸着装置

- *φ*420 mm, *h*400 mm
- 蒸着面の高さ~30 cm
- QCMによる蒸着量測定
- 真空度:~5×10<sup>-3</sup> Pa
   →平均自由行程~1 m
- ヒーター電圧のみによる
   蒸着プロセスのコントロール







TPB蒸着量の定量化と、再現性の保証





### 1相型LAr検出器の収集光量

#### ロ LAr検出器

- 有感領域: φ6.4 cm , h5 cm (PTFE筐体)
- 光検出デバイス: PMT → QE~30% (HAMAMATSU,R11065)
- TPB薄膜: PMT~30 μg/cm<sup>2</sup>
   ESR ~40 μg/cm<sup>2</sup>



- ロγ線源による光量測定
- γ線源: <sup>137</sup>Cs(662keV), <sup>22</sup>Na(511keV)
   <sup>252</sup>Cf + <sup>19</sup>F(n, n' γ) (110, 197 keV)

▶ 約11.5 p.e./keVeeの世界最大光量を達成 PMT QEによる収集光量限界



**ICEPP** Symposium

# Topic2. TSV-MPPC Arrayの導入



### MPPC 光検出器の導入

**ICEPP Symposium** 

#### **ロ TSV-MPPC Array (S13361-60\*\*AE-4)** ※ \*\* にはピクセルサイズ(500と750)



- MPPC接続による信号まとめ読み出し手法の決定
- PSDのための波形情報取得
- 低温耐性(浜木ト未保証)





接続回路を実装した読み出し基板を製作



### 読出し回路の設計・製作

**ICEPP Symposium** 

#### ロ MPPC接続回路

	V <sub>OP</sub>	時定数	Gain
直列	×	0	×
並列	0	×	0
ハイブリット	0	0	×

LAr光のPSDを悪化させないように、 ハイブリット接続を採用

#### ロ TSV-MPPC Array 読出し基板

- 4 Array / 1 board
  - 4MPPC/1signal線
  - 8MPPC / 1HV線
- 64ch MPPC
  - ightarrow 16signal , 8HV





▶ハイブリット接続回路の駆動を確認



K. Ieki, et al., Nucl. Instrum. Methods A 925 (2019) pp148-155

12/15

### TSV-MPPC ArrayのLAr試験

**ICEPP Symposium** 

#### 口 MPPC LAr検出器

- 有感領域: □5.05 cm, h5.4 cm
- ・ 光検出デバイス: TSV-MPPC Array (75U and 50U for R&D)
- TPB薄膜: MPPC~30 μg/cm<sup>2</sup>
   ESR ~40 μg/cm<sup>2</sup>
- <sup>241</sup>Amを設置 (59.5 keV γ線)

### ロ <sup>241</sup>Am イベント (1月 Run)

- 全32チャンネルでLAr光を検出
- <sup>241</sup>Am 59.5 keV γ線ピークを確認



#### MPPC LAr検出器





### TSV-MPPC 検出器の光量評価 1/2

**ICEPP** Symposium

#### ロ現状のMPPC基板の課題

- アンダーシュートが存在 = 全範囲積分すると0
- Gainが小さく、ピーク分離せず = 数p.e.ピークからGain較正不可

➡→ LAr波形の最初の1μsから真の光量を推定し、暫定的に算出

#### ロ MPPC出力のアンダーシュート補正 (C<sub>MPPC</sub>)

- ns パルスレーザーをLAr中で照射
- MPPC+読出し回路の応答特性を関数化
- MPPC波形 ⊗ LAr 発光分布

LAr波形 (75U)



MPPC波形 (75U)

### TSV-MPPC 検出器の光量評価 2/2

**ICEPP** Symposium

#### ロ Gain×N<sub>pix</sub>の算出

#### (N<sub>pix</sub>:1光子に対して何pixel分の出力があるか)

- ・ レーザー runで算出
- 小光量に設定 -> 2p.e.以上はクロストーク
- ペデスタル(laser off)を差っ引き、
   その平均値= Gain<sub>1µs</sub> × N<sub>pix</sub>



#### ロ光量の算出

・ 光量を以下のように算出  $LY = \frac{Q_{Am}}{Gain_{1\mu s} \times N_{pix}} \times \frac{1}{C_{MPPC}}$ 26.1 ± 5.2 p. e./keVee (期待光量~ 23 p.e./keVee)





### まとめと今後の展望

### □ まとめ

- ANKOK実験はLArを用いたWIMP直接探索実験
- 検出光量向上による高感度化に主眼を置き、以下を行った
  - TPB蒸着技術の最適化
  - TSV-MPPC Arrayの導入
- TPB蒸着の最適化により11.5 p.e./keVeeの世界最大光量を達成
- TSV-MPPC ArrayのLAr環境下での駆動を確認 → 26.1 ± 5.2 p.e./keVee

### ロ今後の展望

 TSV-MPPC Arrayを用いたWIMP探索用の 検出器を構築し、1 kg\*50 days以上の 実験を行う。





ICEPP Symposium

### Tetra Phenyl Butadiene (TPB)

**ICEPP Symposium** 

#### □ 波長変換材

- 真空紫外光を吸収し、可視光(420 nm)で発光
- 発光時定数がLAr蛍光に対して十分短い
- 極低温下でもその性質を変えない







TPBあり/なし比較 (withブラックライト)

□諸性質

• 白色粉状の物質





分子式	C <sub>28</sub> H <sub>22</sub>	
分子直径	~1nm	
密度	1.079 g/cm <sup>3</sup>	
融点(@1 atm)	207~209 °C	
沸点(@1 atm)	556.1 °C	

#### 18/15

### TPB 波長変換効率 測定



Wavelength [nm]



#### 測定装置: Dektak 6M



充填率~30%

### 蒸着量測定: Quartz Crystal Microbalance

ICEPP Symposium

□ 水晶発振子マイクロバランス (Quartz Crystal Microbalance, QCM)

- ~100 ng オーダーの質量測定ができるデバイス
- 水晶円板を電極で挟んだ発振子



• 電極面に物質が固着すると、発振周波数が減少する



周波数変化量から、付着量を測定できる

´∆m:固着量  $\Delta m \propto \frac{\Delta F}{A}$  $\Delta F$ :発振周波数変化 : 電極面積





21/15

#### □ 蒸着装置内への導入

- ピンフィードスルーを介して容器内部に導入
- 容器内では50cm分の延長ケーブルの先にQCMを設置



QCMのキャリブレーション

#### □ QCMの個体差と測定再現性

- 砂糖水溶液を用いて、付着量と周波数変化の関係を確認
  - 水溶液の質量を測りながら、電極面に滴下
  - 滴下後、乾燥させ周波数変化を測定
    - 5個体検査 -> 3個体が再現性O





 周波数変化 ΔF から蒸着膜厚 Δt に変換

$$\Delta t = \frac{\Delta F}{\alpha \times A} \times \frac{1}{\rho_{TPB}}$$

$$\begin{pmatrix} \Delta F_{suggar} = \alpha \times m_{suggar} \\ \text{TPB}の密度 & : \rho_{TPB} = 1.079 \text{ g/cm}^3 \\ \text{QCM電極面積} : A = 2.5^2 \pi mm^2 \end{pmatrix}$$

#### 再現性の良い3個体



**ICEPP** Symposium

## PDE**測定**(Gain calibration)

**ICEPP** Symposium

#### LAr波長変換光に対する光子検出効率 (PDE)を測定

- ・ 受光面に期待される光子数:  $\mu_{expected} = 2400$  photon
- Amイベントの入射光子数と検出光子数との比をPDEとする
- Gain/N<sub>pix</sub>
  - LEDデータを用いて算出 (光量=few p.e.)
  - 光量分布を以下の関数でfit  $f(x) = P(0; \mu)Gaus(Q_{ped}, \sigma_{ped})$   $+(1 - X)P(1; \mu)Gaus(Q_{ped} + Gain, \sqrt{\sigma_{ped} + \sigma_{SPP}})$ +nGaus
  - *Gain* ~(2.05 ± 0.19) × 10<sup>6</sup> (cf. スペックシート: 1.9 × 10<sup>6</sup>) Npix : Vov が大きいほど大







ICEPP Symposium

## PDE**測定** (PDE算出)

● PDEを以下の式で算出



(Cocupacy:同一pixelに入る分を補正)

- 測定結果
  - ・ 既にLAr運用実績があるVUVタイプと同様に、以下を確認
    - ✓ LAr蛍光の読み出しが可能 (w/ TPB)
    - ✓ Gain/NpixがVovに伴い上昇
  - TSVのLAr+TPBに対するPDEが>50%
     Vovが大きいほどPDE 大
- TSV-MPPCについて、以下をクリア
  - ✓ LArの極低温環境下 (87 K)で駆動する
  - ✓ LAr波長変換光 (420 nm)に高い感度を持つ
  - 3. 十分な光検出面積を確保できる





## Cocupancy:同一pixelに入る確率補正

**ICEPP** Symposium

#### 以下のように toyMC でAm 波形を再現し、補正ファクターを決定

- Fast, Slowの時定数 10ns, 1.5 us Slow/Total = 0.25 にしたがい発光時間を乱数で決定
- その時間を起点としてたMPPCの応答波形をExp function (50U:40ns, 100U: 160ns)を生成
- 1pixあたり複数の光電子がありかつその波形が重なり合う場合、
   足しあげるのではなく最大値をとるようにする
- 最後に波形のヒストグラムを積分して補正後の光量に換算する





**ICEPP Symposium** 

26/15

#### 受光面積を確保しつつ、チャンネル数を抑えるためにマージ回路を実装する



![](_page_26_Figure_4.jpeg)

![](_page_26_Figure_5.jpeg)

![](_page_27_Figure_1.jpeg)

Number of events /bin

10<sup>2</sup>

10

1

Number of events /bin

10

1

-1000

![](_page_28_Figure_0.jpeg)

MPPC読み出し基徴

![](_page_28_Figure_1.jpeg)

+HV

#### **ICEPP Symposium**

![](_page_29_Figure_2.jpeg)

![](_page_30_Figure_2.jpeg)

31/15

![](_page_31_Figure_1.jpeg)

32/15

TSV-MPPCのPDEをスペック通り(Vov=6V)かつ、75Uと50Uに20photonづつ分配されることを仮定した場合に、期待される光量は 20 photon/keVee\*53% + 20 photon/keVee\*62% = 23 p.e./keVee

![](_page_32_Figure_2.jpeg)